

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200507		
法人名	(有)久里の里		
事業所名	グループホーム久里の郷		
所在地	唐津市久里1130-8		
自己評価作成日	平成29年5月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年9月11日	外部評価確定日	平成29年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あなたの家族をグループホーム久里の郷に入居させたいですか??・・・させたくないことを思い浮かべて逆の援助を実施すればより良い施設になるのでは・・・と会議の席で常々話している。良い睡眠・良い食事・良い排泄の三本柱を心がけながら援助することが大切である。自分がされて嫌なことは言わないししない!をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念やモットーとして掲げているものは、芯になる部分を分かり易く、尚且つ端的な言葉で表現している。玄関に入るとすぐ目につく場所に掲示され、来訪者は事業所の姿勢や想いを感じるようになる。ケアの三本柱と位置付けている睡眠・食事・排泄もまた同様で、基本を示し謳うことは日常の様々なケースに対処する時の指針となっている。また、事業所ではメール等を活用し、遠方や忙しい家族との連絡にも役立てている。職員同士はお互い様という意識で助け合い、管理者のいうチームワークの良さにも繋がっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に久里の里の理念とスタッフに平易な語句でモットーを表示している。	理念は、開設にあたり当時の共同経営者と一緒に創り上げたものである。その後、現経営体制となり、より分かり易い言葉で表現した「モットー」も掲げている。これらは法人内の全ての施設で統一され、毎月の職員会議では意識付けも含め話題にしている。職員は「自分がされて嫌な事は言わない。しない。」を実践しながら日々のケアを努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民が訪問いただき、季節の野菜や果物・魚・獅子肉・ピザなどを届けていただく。緊急時避難場所として活用いただけるように看板を接している。また、駐車場なども自由に使用して頂いている。地域の祭りに参加している。	助け合いの精神が育まれている土地柄である。事業所は地域住民に感謝しながら、時には厚意にも甘え地域の一員として溶け込んでいる。専門性が活かせる貢献として住民の相談事を受けたり、緊急時には避難所として開放することも表明している。地域の情報は回覧板や運営推進会議の折に区長等からもたらされ交流も出来ている。最近、ハロウィンで子供達がお菓子を求め訪れる「家」でもあり、「暮らし」の基盤を築いているのがうかがえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関しての相談を自由にお受けすることを、地域の班長さんに度々お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で提案された事は翌月のスタッフ会議で発案実施している。	会議には、市の担当者は代理となっても必ず出席されている。家族には毎月の利用料明細送付時に、お知らせと出席をお願いしている。地域住民も交え、それぞれの立場で忌憚のない意見を出してもらえよう努めている。自己評価には、運営推進会議を通して理解者や応援者が大いに増えていると記されており、この会議で求められたヒヤリハットの報告は、改善策の検討へと繋がっている。当外部評価の結果も報告する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議には市町村の担当者が必ず参加されている。	市の担当者に問い合わせ等がある場合は直接会って話す事の方が多い。管理者は、市グループホーム連絡会を立ち上げたメインメンバーでもあり、市の担当者とは運営推進会議以外での接点もある。また月に一度、介護相談員を受け入れており、2時間ほどの滞在ではあるが、気付きがあれば報告を受けている。事業所の真摯に取り組む姿勢は市の担当者との協働関係にも繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年4月に身体拘束・虐待・個人情報保護について勉強会を実施している。	指針があり、入居時に説明も行っている。年1回、独自に研修をし、職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。日中は玄関の施錠もなく、仮に外へ向かう利用者があれば職員も一緒に傍らを歩くというのが基本である。行動を抑え、無理に引き返すことはない。体を掻き続ける利用者にはミトンをはめるのではなく、アイデアで対応した例もある。利用者は職員が目配り気配りで安全な暮らしを支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4月に身体拘束・虐待・個人情報保護について勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定と重要事項説明について読み合わせを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の毎月の訪問と3ヶ月毎の報告書内容についてスタッフ会議で共有している。	毎月の利用料支払いもあり、家族の来所は多い。遠方であったり、あまり来られない家族へはメールを活用し、状況によっては電話も掛けている。利用料明細送付時に近況も添えているが、直接会える機会を大切にしている。気軽に何でも話してもらえよう努めている中で家族の要望を知り、介護計画へ反映させた例もある。また、外部に苦情申し立てや要望相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1日にスタッフ会議を行いスタッフの要望などを聞いている。	職員会議は、宿直勤務が明け9時半から1時間とし、休みの職員も出席している。限られた時間内に利用者ごとの状況や意見を出し合い、連絡や報告等もある。職員には自由な発言を促し、現場の改善策となることもある。管理者としては、働きやすい職場である事も重要との認識から、日頃から職員とのコミュニケーションや信頼関係を大切に、そのための配慮もうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的にスタッフの意見聞き希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのキャリアアップのため資格取得に対しての費用や時給を会社で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年より唐津グループホーム連絡会を立ち上げ2ヶ月ごとの研修を実行している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集をしっかりと本人の意向を早く分かるようにしている。事前に病院や前施設に出向いての聞き取りを実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望と個人の希望を丁寧に聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早く施設になじんで頂くことを最優先して、同時に良い睡眠・よい食事・良い排泄の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護援助しながら本人の表情変化に気を付けることを大事にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望を素直な気持ちで受け取るように指導している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・知人・友人の関係にアセスメント参考発言があるので積極的に会話参加を指導している。	入居までの人間関係は本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや利用していた施設、病院等からも話を聞き情報を集めている。具体的な支援としては電話の取次ぎや、お盆・お正月の外出等である。髪の手入れも現在は訪問美容を利用する方が殆どとなった。歳を重ねることに興味を示す事柄も減る傾向にあるが、本人が培ってきたものが途切れないよう、想いに寄り添ったケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を最優先して仲間はずれにならないように目配り・気配りに注意するように指導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設移動されたり、自宅復帰された方に連絡し近況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議の前に本人と家族の要望を聞き取りしている。普段の生活で表情の変化に注意するように指導している。	職員は日々のケアの中で利用者の想いに関心をはらっている。リラックスしている時や、職員が傍らに座り、話し相手をしている時などは想いが聞けることもある。聞き取ったことは個人の記録簿等に記す場合もあり、そこで職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月モニタリングを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを活用しニッカ表に活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の前に担当医や訪問歯科の専門的な意見を収集している。	介護計画の見直しは6か月毎としているが、要望や変化があれば臨機応変に対応している。本人の想いは日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所の折などに聞き取ろうとしている。残存能力の維持は誰もが願うことで、日常の動作を大切に考え支援している。また、毎月の職員会議で行う利用者毎のモニタリングや意見、検討もあり適切な計画が作られている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別介護記録を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の性格と嗜好・趣味を大切にした援助に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思を最優先する介護援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意思と家族の意思を最優先し担当医に伝えている。	事業所の協力医だけではなく、入居前からの馴染みの医師のもとへ通う利用者もある。月2回の協力医による往診の他、歯科に関しては月4回の訪問診療があり口腔ケアに力を入れている。食事はきちんと口から食べてほしいとの想いからである。また、受診に出掛ける際は職員が同行し、結果報告はメールも利用しながら当日中に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が訪問し個人の状態と意思の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による認知症の進行に注意してできるだけホームに早く復帰できるようにアドバイスし入院中は2～3日毎に訪問している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態をよく把握しよりベターな方法を提案している。系列の小規模多機能や看護小規模多機能施設との連携を計っている。	入居時に方針の説明をし、家族等とも共有を図っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。職員をフォローするための勉強会も開いている。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師のオンコールと担当医の常時連絡を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と、水害や原子力避難についてスタッフ会議で実情に合った避難方法の指導を行っている。	避難訓練は年2回、そのうち1回は消防署の立会いもあり、夜間は想定のみで午前中に行っている。当日の地域住民の訓練参加は少ないが、事業所が地域に根付いていることから緊急時等の協力は約束されている。利用者も一緒に避難を体験し、全ての職員は消火器や火災通報装置の使い方を承知している。居室の家具類がドアを塞ぐような配置はしておらず、非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。消防署からの指摘等があれば速やかに改善され職員へも周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やわらかい対応と声掛けの指導している。	モットーに掲げている「自分がされて嫌なことは言わない。しない。」ケアが実践されている。もし不適切なケアがみられた場合は速やかに指導することとしている。また、個人情報の取扱いに対する意識は高く、所内に掲示の個人写真や居室前の名札等は入居時に承諾も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設の仕事の進め方に拘らない援助を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の仕事の進め方に拘らない援助を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	嫌がらない程度に着替えや手足のケアを行っている。時々マニキュア・ペティキュアなど。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶碗やお皿の色、調理したものの色合いなどに注意するように指導している。体の動く方には簡単な作業のお手伝いをさせていただいている。	利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしている。歳を重ねるごとに手伝えることは少なくなっているが、出来る事を職員と共に行う利用者もある。献立は食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫の中身で考えたり、一般の家庭と同じである。なかなか箸が進まない利用者には、例えばおにぎりにしてみるなど、目先を変える工夫で功を奏している。また、嚥下状態や介助の度合いにより食事の提供に時間差を設け、全員が食べ終わるまで数時間を要すものの、利用者一人ひとりを急かすことなく支援している。口腔ケアに力を入れており、「食」をケアの三本柱のひとつに位置づけている。誕生日も必ず当日に祝い、手作りケーキが用意され、家族が訪れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食とAM/PM親辻水分の補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後口腔ケア ・特に1日1回は口腔内残りカスの除去に重きを置いている ・月4回訪問歯科によるケア 		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ自立排泄できるような援助を指導している。	排泄に関して完全に自立している利用者は1名である。日中はトイレでの排泄を基本とし、チェック表により個々の排泄のタイミングも把握している。予測と適切なケアにより、入居後にはオムツから布製パンツへと改善した例もある。また、ヒヤリハットを受け、現状の手摺りだけではなく便座周りの可動式ひじ掛けも検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	良い排泄がいかにか心と身体に影響するかを会議の度に指導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	事前にバイタルを測り本人の意思を確認して実施している。	利用者は概ね週に2~3回の入浴になるが、お風呂の準備は毎日できており、希望があればいつでも可能である。拒む方にはタイミングをずらしたり、職員を変えて対応している。難しい場合は清拭や足浴等も行っている。シャンプー等は事業所で用意し、一人ずつゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。また、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は見守りながらのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良い睡眠を得るために日中はリビングで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で服用できる方と手渡し・嚥下の確認と分けて、緩下剤を特に注意しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な日常仕事はできるだけ入居者に声掛けしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物外出やドライブに声掛けしている。	利用者から外出の希望が聞かれることは殆どない。テレビの情報や職員との会話から興味を示す様子はみられるものの、いざ外出となるとはっきりと拒否する利用者もある。以前のような遠出のドライブはなくなったが近場へは出掛けている。事業所周辺を散歩することもある。デッキテラスで外気浴をする利用者もある。気分転換や五感を刺激する効果もあることから、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在対称の方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話は自由にいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の自由に任せているが廊下やトイレの照明は判りやすい色など考慮している。黄色から白色に変化した。	利用者が一日の殆どを過ごすリビングは明るく、目の前のデッキテラスに屋根があることで強い西日は遮られている。季節を感じさせる貼り絵があり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。周辺には煙も多く、騒音は全くない。トイレや浴室はきれいに掃除され、嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々ベランダでのお茶タイムを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷蔵庫や仏壇の持ち込みも自由に任している。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険物以外に制限はしていない。仏壇を持つ利用者には毎朝、水や仏飯が職員により供えられている。家具類の配置や写真等の飾りは利用者と話しながら行っている。担当職員は決めていないが、全員で9名をカバーし衣替え等にも配慮している。家族の希望があれば和室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋らしくして頂き自由に任せている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない